

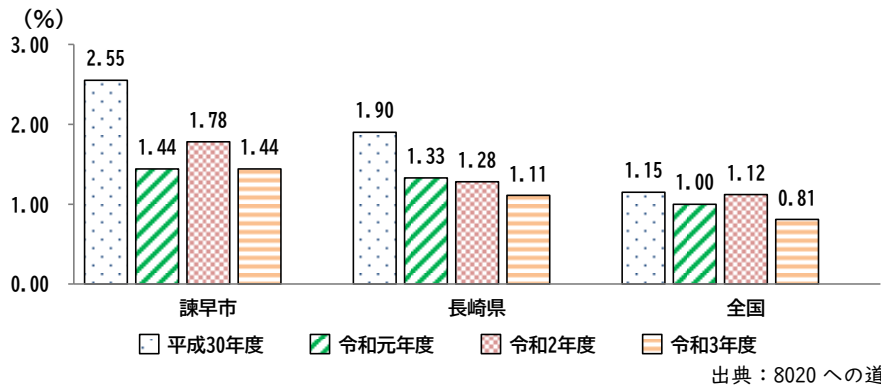
## 第3章 諫早市の現状と取り組み

### 1 乳幼児期

#### (1) 健診の状況

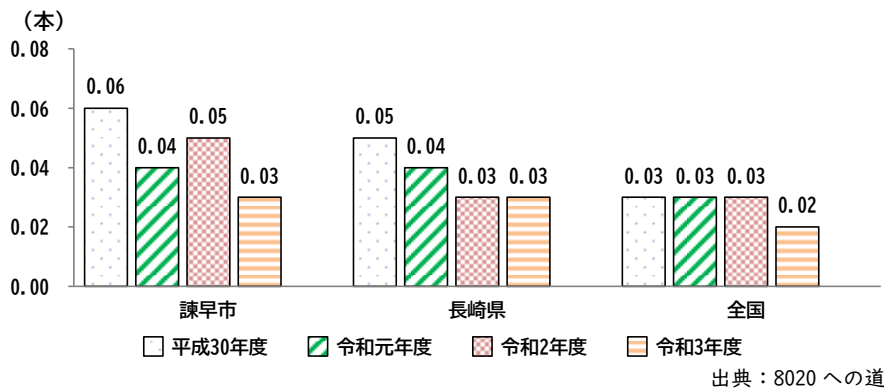
##### ① 1歳6か月児の健診結果

【う蝕有病率（1歳6か月児）】



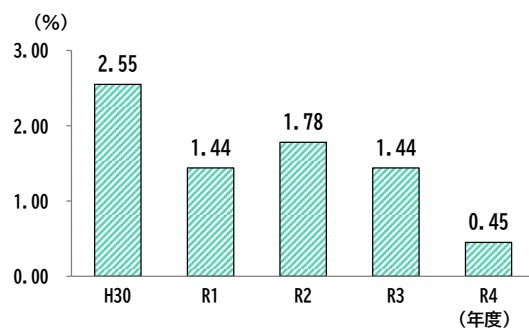
○本市の1歳6か月児のう蝕有病率、1人平均むし歯数ともに国・県と比べ高い状態となっています。

【1人平均むし歯数（1歳6か月児）】

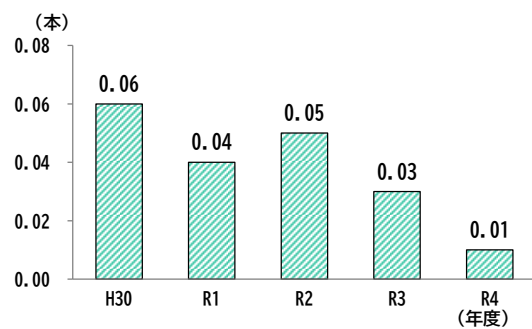


##### ② 諫早市1歳6か月児のう蝕罹患の経年変化

【う蝕有病率（1歳6か月児）】



【1人平均むし歯数（1歳6か月児）】

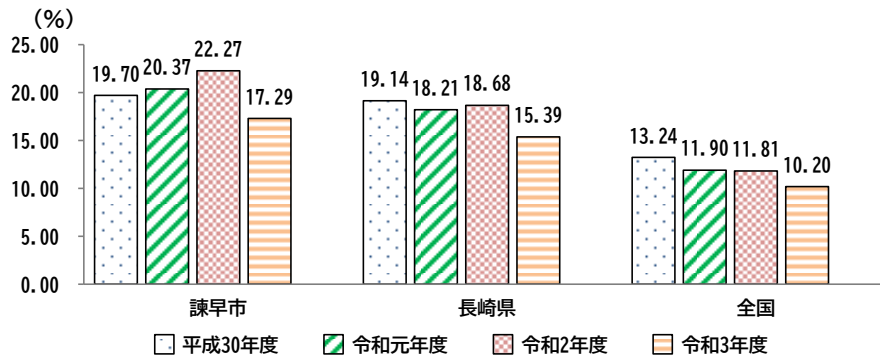


出典：8020 への道

○本市の1歳6か月児のう蝕罹患状況を経年的に比較すると、令和4年ではう蝕有病率が0.45%、1人平均むし歯数が0.01本に減少しています。

### ③ 3歳児の健診結果

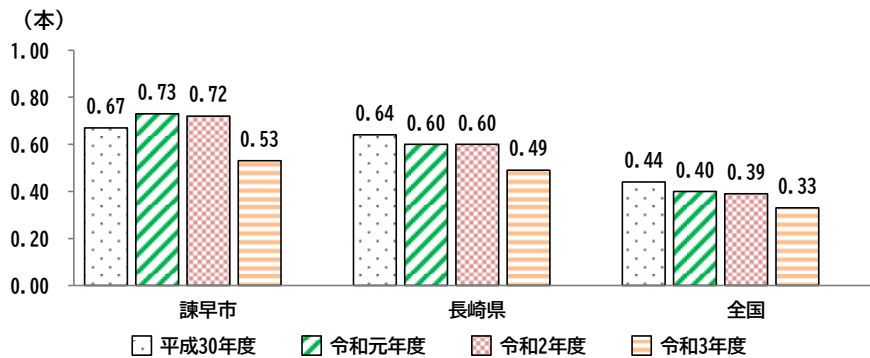
【う蝕有病率（3歳児）】



○本市の3歳児のう蝕状況を経年で比較すると、う蝕有病率、1人平均むし歯数ともに、国・県と比べ高い状態となっています。

出典：8020への道

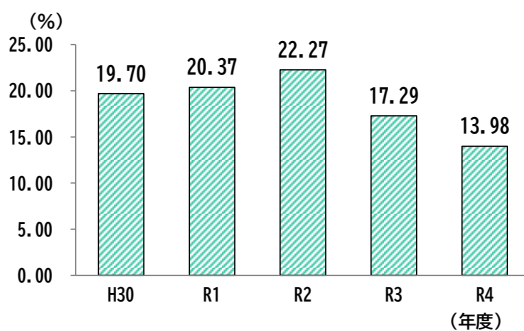
【1人平均むし歯数（3歳児）】



出典：8020への道

### ④ 諫早市3歳児のう蝕罹患の経年変化

【う蝕有病率（3歳児）】



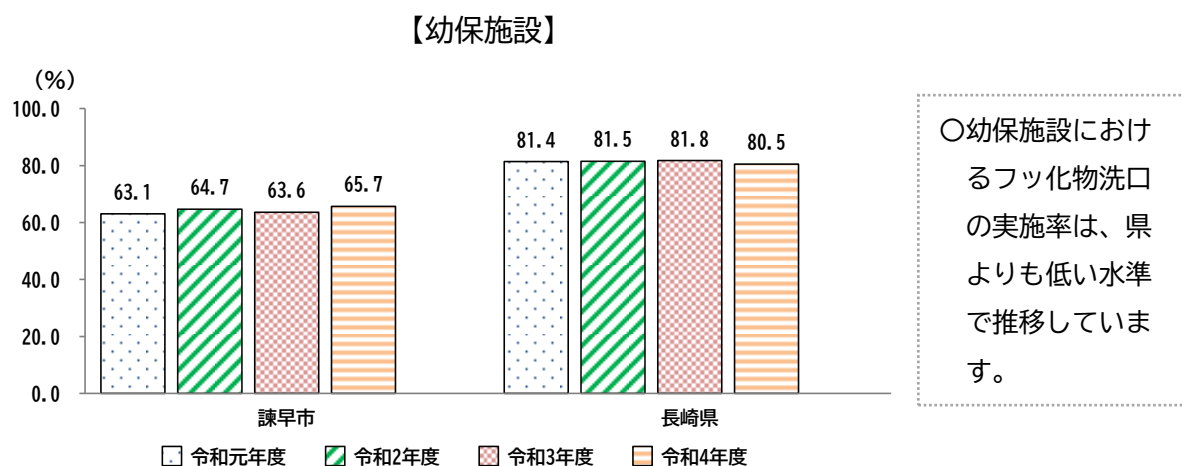
【1人平均むし歯数（3歳児）】



出典：8020への道

○本市の3歳児のう蝕有病率を経年で比較すると、令和4年では13.98%に減少しています。1人平均むし歯数も同様に、令和4年では0.40本に減少していますが依然として高い状況です。

## (2) フッ化物洗口の実施状況



出典：フッ化物洗口実施状況調査

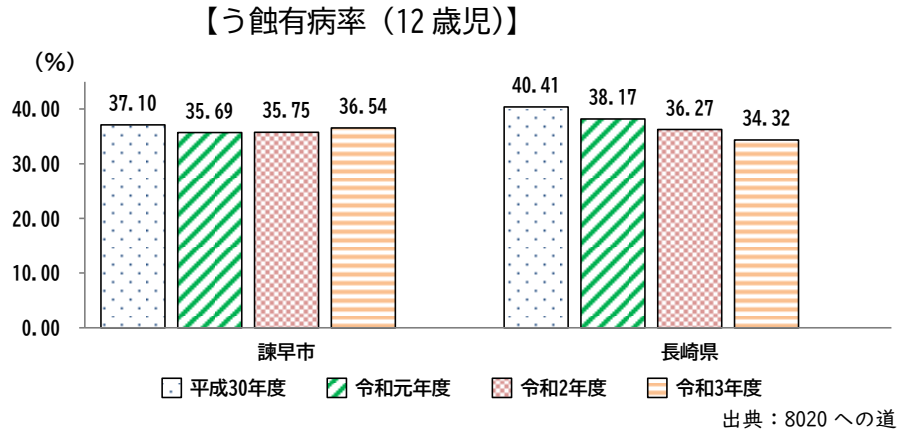
## (3) 乳幼児期の現状と課題及び取り組みの内容

<b>現 状</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1歳6か月と3歳児健診結果からう蝕有病率及び1人平均むし歯の本数は県より高い水準である。</li> <li>・ 1人平均のむし歯本数は令和3年度及び4年度で減少傾向となっている。</li> <li>・ 令和4年度のフッ化物洗口の実施状況は、幼稚園保育所計67施設中44施設で実施しており、実施率65.7%であり、県よりも実施が低い状況である。</li> </ul>
<b>課 題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ う蝕有病率や1人平均むし歯数について、全国や県と比較して、1歳6か月児から3歳児の間での増加が著しい。</li> <li>・ 健診で問題を発見しても歯科受診につながらない複合的な問題があると考えられる。</li> <li>・ 親世代への歯科的なアプローチが十分ではない。</li> <li>・ 家庭背景がこどものむし歯へ影響する。</li> <li>・ 乳歯は抜けてしまうからむし歯になっても大丈夫という間違った認識があるようである。</li> <li>・ 保育所（認可・認可外）施設でのフッ化物洗口が実施できる環境を整え、推進していくことが必要である。</li> </ul>
<b>取 り 組 み</b>	<p><b>【個人、家庭の取り組み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科に関する研修会等に参加し、口腔管理の重要性を認識し実践できるようにする。</li> <li>・ 保護者が仕上げ磨きを行うように努める。</li> <li>・ 食べる力の習得や向上のため知識を習得する。</li> <li>・ ゆっくりよく噛んで食べるように指導する。</li> <li>・ 家庭でのフッ化物の利用を検討する。</li> </ul> <p><b>【関係団体、行政の取り組み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2歳6か月児歯科健診を受診するように促す。</li> <li>・ 幼児健診でむし歯の多い子へのフォローを行う。</li> <li>・ かかりつけ歯科医を持つなど、歯科受診を促すための支援を行う。</li> <li>・ こどもの口腔管理を実践するため、課題を踏まえて研修会を開催する。</li> <li>・ 乳幼児の食育について、保護者に向けた周知・啓発を行う。</li> <li>・ フッ化物洗口未実施の施設に周知・啓発を行い、フッ化物洗口の実施につなげる。</li> </ul>

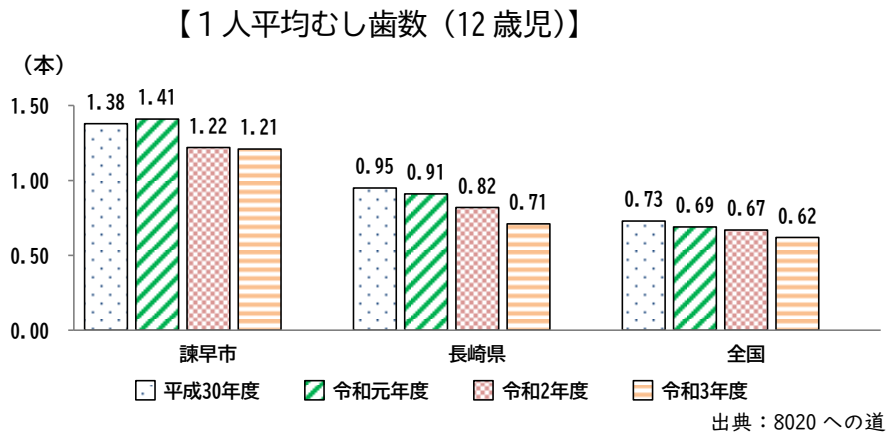
## 2 学齡期

### (1) 健診の状況

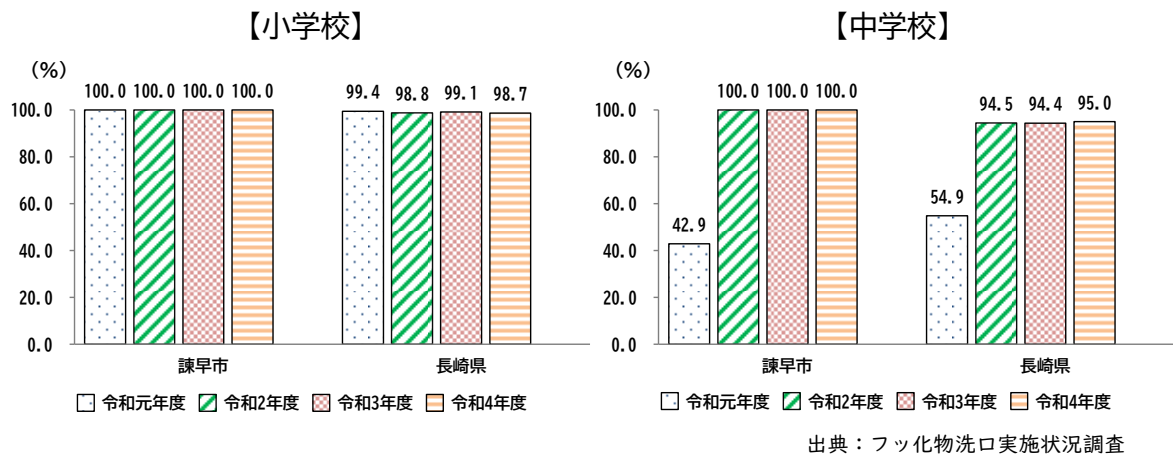
#### ① 12歳児の健診結果



○本市の12歳児のう蝕状況を経年で比較すると、う蝕有病率は令和元年度から若干増加傾向となっており、県と比較しても高い状態となっています。1人平均むし歯数も国・県と比較すると高い状態となっています。



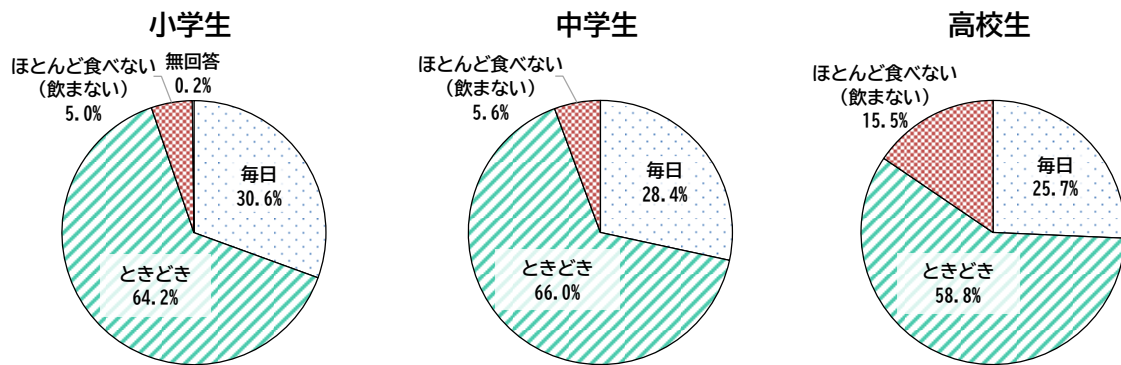
#### ② フッ化物洗口の実施状況



○フッ化物洗口実施率については、小・中学校ともに現在100%となっていますが、各学校でフッ化物洗口を実施している児童・生徒の割合は不明です。

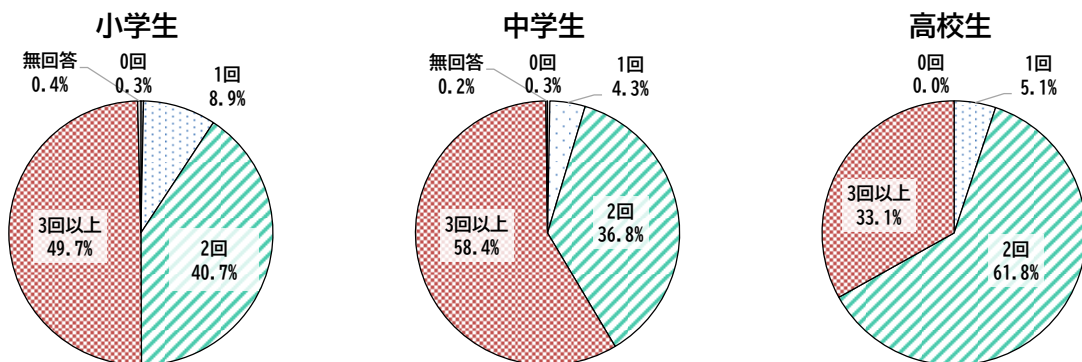
## (2) アンケート調査結果 (R4市民アンケート)

### ①お菓子を食べたり、甘い飲み物を飲んだりしますか



- 小学生、中学生、高校生ともに「ときどき」が最も高くなっています。
- 「毎日」の割合は、年齢が高くなるにつれて低くなっています。
- 「ほとんど食べない(飲まない)」の割合は、小学生及び中学生と比較して、高校生では割合が10ポイント程度高くなっています。

### ②あなたは、歯みがきを1日何回しますか



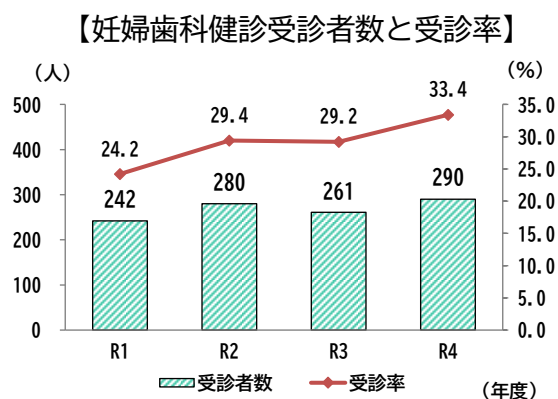
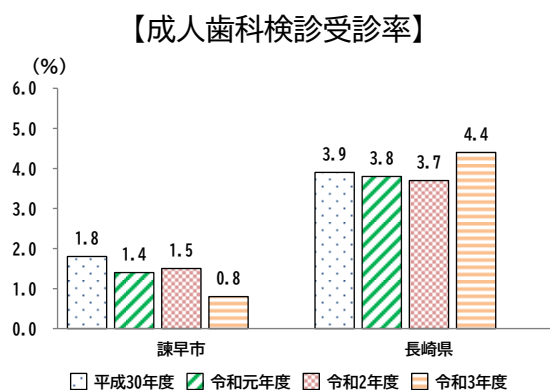
- 小学生及び中学生では「3回以上」の割合が最も高くなっていますが、高校生になると「2回」が最も高くなっています。

### (3) 学齢期の現状と課題及び取り組みの内容

<p style="text-align: center;"><b>現 状</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12歳の1人平均むし歯数は県平均より多い。</li> <li>・小中学校でフッ化物洗口を実施（小学校はH29、中学校R2より）している。</li> <li>・コロナ禍は学校等におけるフッ化物洗口ができない時もあった。</li> <li>・お菓子、甘いものを食べる割合がH28の前回調査より高くなっている。</li> <li>・H28のアンケート結果より「2回もしくは3回以上」歯を磨く人の割合が減少している。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>課 題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人平均むし歯数が全国・県平均に比較して多い。</li> <li>・学校歯科健診後の歯科受診率が低い。</li> <li>・学校に出て来られない児童や生徒はフッ化物洗口ができない状況である。</li> <li>・健診でむし歯がなければ歯科を受診しないのでかかりつけ歯科医を持つきっかけがない。</li> <li>・自分の口腔内への関心が低いことがうかがえる。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>取 り 組 み</b></p>	<p>【個人、家庭の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・むし歯や歯肉炎になる要因を知り、家庭で各自が自分の口腔への関心を持ち口腔ケアをできるようにする。</li> <li>・乳歯から永久歯への生えかわる時期であるので、むし歯や歯肉炎、歯列不正に留意した生活習慣を身につける。</li> <li>・むし歯の治療に関して、保護者がこどもに歯科受診を行うように促す。</li> <li>・食べる能力の向上や確立に重要な時期なのでよく噛む習慣を身につける。</li> </ul> <p>【関係団体、行政の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔に問題がなくてもかかりつけ歯科を持ち、定期受診することの必要性を伝える。</li> <li>・口腔管理に関して低学年では保護者の関与を高学年では自己管理の重要性を伝える。</li> <li>・小中学校においてフッ化物洗口の100%実施を維持し、フッ化物洗口を実施する人の数や洗口回数を増やし充実を図る。</li> <li>・こどもと保護者に向けたフッ化物利用に関する周知・啓発を充実し、フッ化物利用を行うこどもを増加させる。</li> <li>・学校に出て来られない児童や生徒が集まれる場所を作り、フッ化物洗口など口腔管理を行う。</li> <li>・学校歯科健診後の歯科受診率が向上するよう未受診者へ受診を促す。</li> <li>・広報やホームページ、イベントなどで歯の健康に関する情報提供を行う。</li> <li>・歯肉炎を予防する知識を周知し啓発する。</li> <li>・学校でブラッシング指導や栄養教諭による食育指導等を実施する。</li> </ul>

### 3 成人期

#### (1) 歯科検診の受診状況



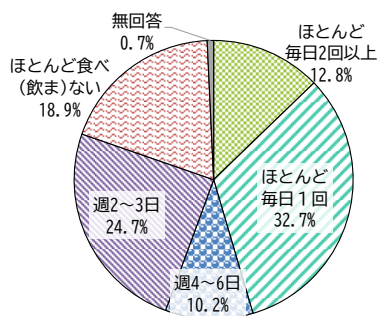
出典：8020 への道・妊婦歯科健診

○本市の成人歯科検診受診率を経年で比較すると、県よりも低い状態で、若干減少傾向となっています。

○本市の妊婦歯科健診受診者数は増えているが、受診率は約3割です。

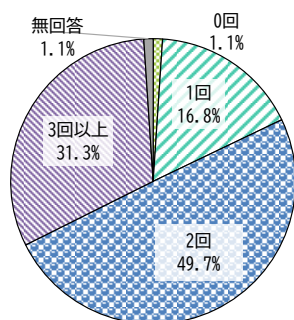
#### (2) アンケート調査結果 (R4 市民アンケート)

①あなたは、甘いおやつや甘い飲みものをどのくらいの頻度で食べ(飲み)ますか



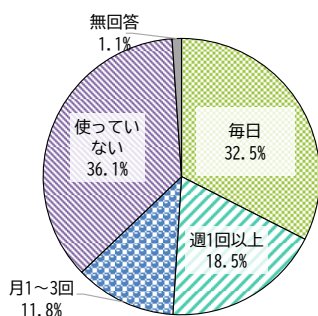
○「ほとんど毎日1回」が32.7%と最も高くなっており、次いで「週2~3日」24.7%、「ほとんど食べ(飲ま)ない」18.9%となっています。

②あなたは、歯みがきを1日何回しますか



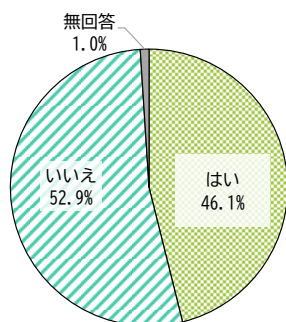
○「2回」が49.7%と最も高くなっており、次いで「3回以上」31.3%、「1回」16.8%となっています。

③あなたが歯みがきをする際に、歯間ブラシやデンタルフロス・糸ようじを使っていますか



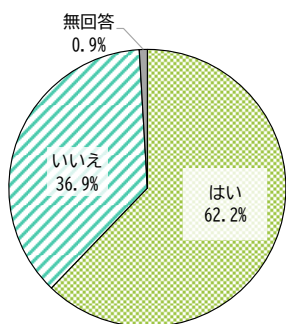
○「使っていない」が36.1%と最も高くなっており、次いで「毎日」32.5%、「週1回以上」18.5%となっています。

④あなたは、かかりつけ歯科医で定期的に歯科健診を受けていますか



○「はい」が46.1%、「いいえ」が52.9%となっています。

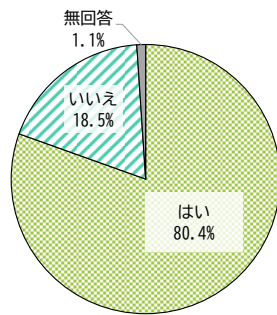
⑤あなたは、過去1年間に歯科健診を受けましたか



○「はい」が62.2%、「いいえ」が36.9%となっています。

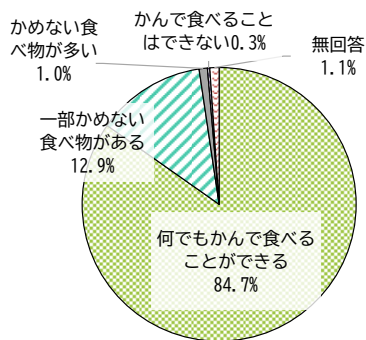


⑥あなたは、歯周病が生活習慣病に関連があることを知っていますか



○「はい」が80.4%、「いいえ」が18.5%となっています。

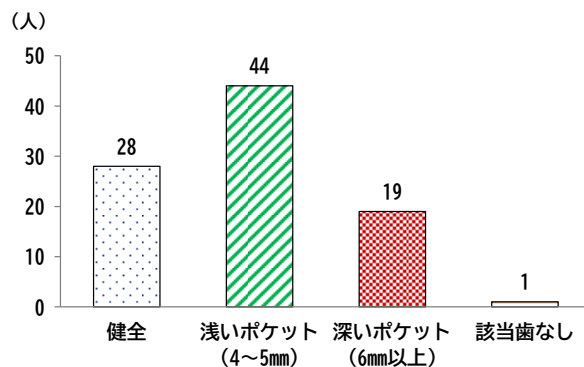
⑦あなたは、食べ物を食べる時はどのような状態ですか



○「何でもかんで食べることができる」が84.7%と最も高くなっており、次いで「一部かめない食べ物がある」12.9%、「かめない食べ物が多い」1.0%となっています。

(3) 歯周病検診結果

【歯周ポケット検査結果】



出典：令和3・4年成人歯周病検診（対象40歳代以上）

○「健全」が28名、「浅いポケット（4~5mm）」が44名、「深いポケット（6mm以上）」が19名、「該当歯なし」が1名となっており、40歳代以上で歯周病を有する人の割合は68.5%となっています。

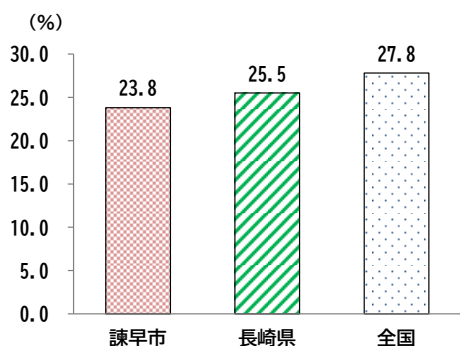
#### (4) 成人期の現状と課題及び取り組みの内容

<p><b>現 状</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯周病検診を受けている人が少ない。</li> <li>・ 過去一年間に歯科を受診しなかった人が約 37%いる。</li> <li>・ かかりつけ歯科医がいる人の割合が半数に満たない。</li> <li>・ 妊婦歯科健診受診者数は増えているが、受診率は約 3 割である。</li> </ul>
<p><b>課 題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職場が市外などの場合は諫早市の歯周病検診受診が難しい。</li> <li>・ 歯周病罹患状態を把握するための歯周病検診受診者が少ない。</li> <li>・ 仕事の時間を割いて歯科受診しづらく、現役世代はなかなか歯科医院へ行かない。</li> <li>・ かかりつけ歯科医をもつ必要性の動機付けが不足している。</li> <li>・ 妊娠期および産後の口腔管理が必要だが十分とは言えない。</li> <li>・ 口腔管理が生活習慣病に影響することを知らない人が多い。</li> <li>・ 20代で歯ブラシ以外の道具を使う人が少ない。</li> </ul>
<p><b>取 り 組 み</b></p>	<p>【個人、家庭の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ かかりつけ歯科医を持ち定期的に歯科を受診して専門的口腔ケアを受ける。</li> <li>・ 妊娠期および産後の口腔の健康管理の重要性を理解して口腔ケアを行う。</li> <li>・ 自身の口腔管理に関する意識を高め、喫煙などの習慣や全身疾患と口腔疾患との関連を認識し自宅で口腔ケア等を行い良好な生活習慣を確立する。</li> <li>・ ながさき健康づくりアプリをダウンロードして歯科についての情報を取り入れる。</li> <li>・ 歯ブラシ以外の口腔清掃補助用具を使用する。</li> </ul> <p>【関係団体、行政の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯周病のリスクや口腔の健康の重要性について周知を行う。</li> <li>・ 歯周病検診の受診勧奨を行い、受診者数を増やす事によって歯周病罹患状態の実態を把握し、歯科受診を促す。</li> <li>・ 職場などで歯科教育研修の実施や歯科健診事業を充実させる。</li> <li>・ 母子手帳交付時に妊娠期及び産後の口腔の健康管理の必要性について教育や相談を実施する。</li> <li>・ 妊婦歯科健診受診数の増加を図る。</li> <li>・ 広報やホームページ、ながさき健康アプリ、イベントなどで歯の健康に関する情報提供を行う。</li> </ul>

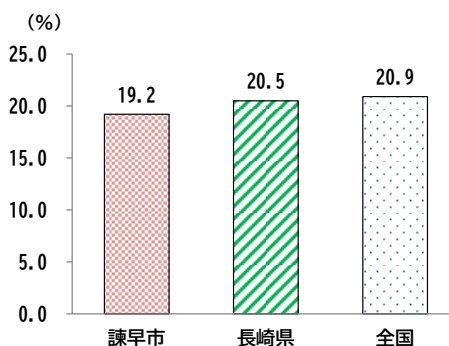
## 4 高齢期

### (1) 口腔機能の状況 (65～74歳)

【半年前に比べて固いものが食べにくい】



【お茶や汁物等でむせる】

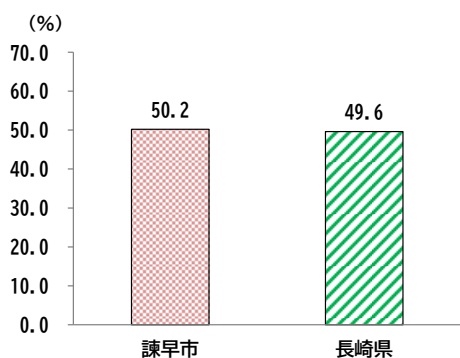


○「半年前に比べて固いものが食べにくい」「お茶や汁物等でむせる」ともに、2割前後となっています。国及び県と比較すると少ない状況です。

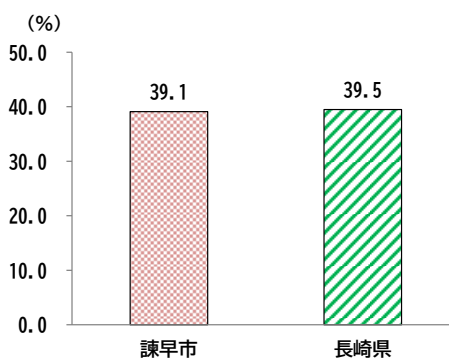
出典：R4年度国保データベースシステム

### (2) 後期高齢者の歯科受診の状況

【歯科受診率】



【20本以上の残存歯数の割合】

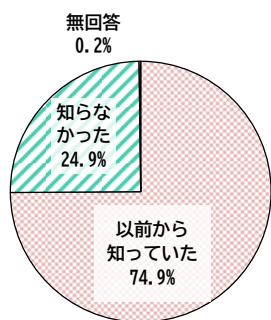


○本市の後期高齢者の歯科受診率が5割程度、20本以上残存歯数割合が4割程度となっており、県とほぼ同程度となっています。

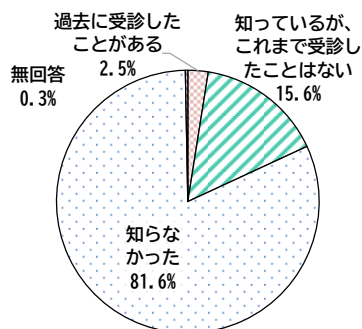
出典：長崎県令和2年度疫学分析に基づく医療費適正化効果の可視化業務報告書

### (3) アンケート調査結果 (後期高齢者)

【口腔ケアと誤嚥性肺炎との関連性の認知度】



【お口の健診制度の認知度】



○口腔ケアと誤嚥性肺炎との関連性の認知度は高いものの、健診制度の認知度は低い状況です。

出典：R4年度諫早市後期高齢者 お口の健康アンケート 調査結果

#### (4) 高齢期の現状と課題及び取り組みの内容

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・残存歯数 20 本以上の人は、4 割程度となっている。</li> <li>・口腔ケアと誤嚥性肺炎との関連を知っている人は多い傾向である。</li> <li>・口腔への関心はあるが、健診が行われていることの認知度が低い。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・残存歯数 20 本以上の人の割合が低い。</li> <li>・口腔機能の低下を自覚されている人が約 20%いる。</li> <li>・誤嚥性肺炎の認知度は高いが、健診制度の認知度は低い。</li> <li>・過去一年間に歯科を受診しなかった人が約 50%いる。</li> </ul>
取り組み	<p>【個人、家庭の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・むし歯や歯周病の予防に向けて、歯みがき習慣の継続などに取り組む。</li> <li>・飲み込む機能が低下しないようお口の健康トレーニングに取り組む。また、専門的なチェックを受け口腔機能の向上に取り組む。</li> <li>・かかりつけ歯科医を持ち定期的に歯科を受診して専門的な口腔管理を受ける。</li> </ul> <p>【関係団体、行政の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者のむし歯や歯周病の予防、欠損の放置、義歯の不具合について、本人や介護者等に向けた周知・啓発を行う。</li> <li>・口腔の健康に関する相談窓口の機能強化と市民への周知を推進する。</li> <li>・簡単にお口の状態を知ることができるお口のチェックシートの活用を広める。</li> <li>・広報やホームページ、イベントなどでフレイル予防教室や関係機関が実施している事業および訪問診療に関する情報提供を行う。</li> <li>・かかりつけ歯科医を持つことの重要性について周知する。</li> <li>・介護保険サービス利用時などに口腔機能訓練の支援をする。</li> <li>・ケアマネジャー等と多職種連携を十分にとり、健診の受診率向上につなげていく。</li> <li>・お口の健診制度の周知を図る。</li> </ul>

## 5 配慮が必要な人

### (1) 配慮が必要な人の現状と課題及び取り組みの内容

現状	<ul style="list-style-type: none"><li>・過敏さがある子の歯科治療を受け入れてくれる歯科医院の周知が不足している。</li><li>・訪問歯科・障害者歯科協力歯科医院の情報が周知されていない。</li><li>・歯科診療を受けている人の割合が低い。</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・配慮が必要な人に関するデータの収集が十分でない。</li><li>・訪問診療など必要な情報が行き渡っていない。</li><li>・障害者への歯科的アプローチが十分でない。</li><li>・歯科を受診する環境の整備が十分でない。</li></ul>
取り組み	<p>【個人、家庭の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・訪問診療について情報を得る。</li><li>・家庭での口腔ケアや食習慣、口腔機能障害、嚥下機能に合わせた食形態などに関する知識を習得し良好な生活習慣を確立する。</li><li>・訪問診療だけでなく、定期的に歯科を受診する。</li></ul> <p>【関係団体、行政の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・配慮が必要な人の現状を把握する体制を作り情報を把握するよう努める。</li><li>・配慮が必要な人への支援の充実を図るため行政や歯科専門職を含めた関係職種が連携して知識の向上を図る。</li><li>・配慮が必要な人が、必要とする歯科治療を受けることができる体制づくりを推進する。</li><li>・訪問歯科・障害者歯科協力歯科医院の情報を周知する。</li><li>・チラシ等の作成を推進するとともに、広報やホームページ、イベントなどあらゆる媒体を通じて、歯の健康に関する情報提供を行う。</li></ul>